

トラストガーデン宝塚通信

2016年
秋号



ご入居者インタビュー

田中 千枝子 様

山 口県下関市の医院兼住居の戸建で、夜は一人で過ごされることが多いかったとのこと。家事をきちんとしないと気が落ち着かない几帳面な性格で、数年前まではお車を運転し、ゴルフや手芸のデグページュにカラオケと趣味の時間も大切に、忙しくも充実したお暮らしだったそうです。

歯の性格を良く知っているだけに、このまま若い頃と同じようでは、身体に障り健康的に暮らせなくなるのではとご兄弟とともに心配され、漠然と悩み始めていたそうです。

「初めに熱中症やめまいで体調が悪くなつたとき、コールボタンひとつですぐに看護師が部屋に駆けつけて処置してくれたり、

私たち介護士は介護が必要になった時
でも、ご入居者がそれまでと変わら
ない安心したお暮らしやイキイキとした
毎日をお過ごしいただくサポートをしてお
ります。

The image consists of two photographs. The top photograph shows a young man with glasses and a light blue shirt sitting at a wooden table, reading from an open book to a group of elderly women seated around him in what appears to be a nursing home or community center. The bottom photograph shows a group of nine young women, likely students, dressed in white blouses and ties, posing together in a classroom or school setting. They are arranged in two rows, with some standing on chairs to be level with others.

スタッフ紹介



介護サービスグループ

アにも努めております。また介護チームだけでは解決できないことは、看護チームなど各部署と連携してチームアプローチケアにより、お一人おひとりに寄り添い孤独や不安を感じないお暮らしを提供しております。QOL(生活の質)を高める為、質が高いケアの提供に挑戦し続け、ご入居者との出会いと感動をいつまでも大切にして、これからも精一杯努力してまいります。

トラストガーデンでは「ひとつの大好きな家族」でありたいという思いで、いつでも気兼ねなく、何でも相談ができる皆さまと心が一つになる事を何よりも大切にしています。

一日は、起床のお手伝いからはじまります。顔色や普段のご様子と違うところはないかと会話からも気づくよう心がけ、その日の体調やご気分に合わせてお手伝いをしております。また、付き添いで受診する病院での待ち時間や入浴のお手伝いの時にも、なるべくお話をすることでお心のケ

「わざわざお越しいただき、感謝いたします。」と最後まで丁寧な言葉で話す。

「私は、家族の協力とスタッフ皆さんのが明るいこと笑顔に支えられ、今もこの劇場で活動を続けています。」

優しい田中様ですから、ご友人もでき、みなまと一緒に出かけツアーやよく参加されます。関西本場のお好み焼き「エクシブ有馬離宮ランチ」「宝

が対応してくださるので、親切に甘え、身体を労わるようになります。」

ひとつですぐに看護師が部屋に駆けつけて処置してくれたり、電球の取替えや宅急便の重い荷物等の受け取りにもスタッフ

さきな安心感に包まれて
いるようだと仰る田中様。

も明るい印象。ケアの体制も整っており、娘にも近いから「丈夫かな」と、思い切って新しい人生を歩みだそうと決断されました。

おでかけグルメツアーアー



近場に車でお出かけして美味しいものを頂く「グルメツアーアー」へ行つてきました。

綺麗な水と 自然で培われた山の幸

今回は能勢町の美しい里山に囲まれたお蕎麦屋さんへ「蕎麦と里山料理」を食しに出かけてまいりました。

出発してからの道中は、能勢町の野山や田畠の穏やかで懐かしい風景が続き、心が和むドライブとなりました。

お店に到着すると周りには雄大な里山風景が広がります。茅葺き屋根の家を改装した建物の中でも、秋の季節を感じ、自然を見ながら食べる

蕎麦のコース料理に皆様、会話も弾みゆっくりとした時間を過ごされました。

綺麗な水と自然で培われた山の幸に、皆様大変満足されていました。



楽しい、現地特産品 のお買い物

お腹も満たされた後は「くりの郷 道の駅」

でのお買い物。

能勢町の現地でしか購入できない特産品を吟味され、様々なお土産を買われ楽しまれておられました。

今回も、ご入居者同士の交流が深まるあたたかな時間となりました。



川柳の会

俳句と同じ「五・七・五」の17音詩。

川柳は、俳句のような季語は必要としませんし、口語体で人生の機微や世相などを風刺的に描写するのが特色です。

今回はリオ五輪や高校野球の開催もありスポーツ関係の作品が集まりました。秋を迎えるこれからは、食べ物や芸術が題材になるのでしょうか。

月に一度、講師から指導を受けながら、人生経験の豊かな皆さまが感性と想像力をはたらかせて、それぞの川柳つくりを楽しんでおられます。



雲雀丘100年フェスティバル



ホームがある雲雀丘・花屋敷地区は、2016年(平成28年)で住宅地開発100周年を迎えました。時代を先取りした街並みも、100年の流れの中で少しずつ、その姿を教えてきました。地域の絆づくり、将来のまちづくりの一環として、10月8日に宝塚大学にて記念式典が執り行われました。

今回、「コミュニティひばり」の提唱する「より住み心地の良い新しいまちづくり」というコンセプトに賛同し、微力ながらお手伝いさせていただ

きました。
今後の地域のコミュニティの発展を祈念しております。